

名前：

世界規模で情報化がすすんだ近年、より多くより早い情報伝達的手段としてインターネットが盛んに利用されている。しかしインターネットには多くの利点もあるが欠点もある。未だその姿も消さずにいる新聞や雑誌など紙媒体の有用性も忘れてはならない。

確かに、インターネットには伝達の即時性と提供量の無限性があり、記事を紙面に配置し印刷、販売と手間のかかる紙媒体にこの点では勝つというものの、完全にその役を取って代わり得ない要因となるデメリットもある。まず、情報元の信頼性に確証を持ちにくい点がある。誰でも好きな時好きな事について公表できる場だから、事実関係が正しくないこともありうる。また紙面のために誤植錯誤して掲載の如何を決定する機会も十分ではない場合も多からう。次に、地域や世代によって享受できる利便性に格差が生じる点がある。例えば私の祖父などはパソコンを触ったこともないため紙媒体が情報源として占めるウ

エイトは大きい。また知り合いの在インド邦人の話では日本で数秒でダウンロードできる情報量が現地では数十分から数時間要するそうだ。そうやって来ると定期的に手に入る確証がある紙媒体は捨てがたい。さらに、現代に至るまでに人類が遺して来た数々の紙媒体資料をネットで見るにはデータ化に膨大な時間がかかり、非現実的である。

紙媒体にある一つの大きな存在意義として、「手渡し」がある。我々は新聞や雑誌を配達員や販売員の手を通してしか、すなわち人の顔が見える生身の社会に飲めることでしか得られないのだ。それはキーボードやブラウザ管を通じた仮想世界では決して味わえない生活感も我々に与えてくれるのではないだろうか。例えば、一人暮らしの老人の家に毎日配達をすること、安否を確認することなどができる。例えば何日分も新聞が詰まったまつのポストを見て隣人が異変を察知することもある。そういってコミュニティにおける紙媒体

1800字

の意義も私たちは普段意識しない。電子媒体
がパソコンとパソコンをつなぐのだから、
紙媒体が人と人をつないでいる側面を見落
としてけならぬ。